

浅間山の火山活動解説資料

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

浅間山では、本日（2 日）0 1 時 5 1 分頃の小規模な噴火が発生し、噴煙は南東方向に流れ、関東南部でも降灰が確認されています。

山頂火口から 4 キロメートルの範囲では、噴火に伴う大きな噴石（風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きさのもの）の飛散等に警戒が必要です。

○ 活動概況

浅間山では、本日（2 日）01 時 51 分頃に小規模な噴火が発生しました。噴煙の高さは、火口縁上約 2000m に達し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が、火口の北側約 1 キロメートルまで飛散するのを観測しました。火砕流は発生していません。

本日 08 時頃まで火山灰の噴出が続きました。噴煙は南東方向に流れ、関東南部でも降灰が確認されています。本日 08 時現在、降灰が確認された地域は以下のとおりです。

長野県：軽井沢町

群馬県：富岡市、藤岡市、安中市、下仁田町、甘楽町

埼玉県：熊谷市

東京都：千代田区、福生市、府中市、昭島市、立川市

神奈川県：横浜市、川崎市

千葉県：君津市

本日 01 時 51 分頃の噴火以降、山頂火口直下が震源とみられる周期の短い火山性地震の回数は減少しました。また、傾斜計でみられていたマグマの上昇を示すと考えられるわずかな変化は、鈍化しています。噴煙高度は火口縁上概ね 100 メートルで推移しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

この資料は気象庁のほか、国土交通省利根川水系砂防事務所、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び長野県のデータも利用して作成しています。

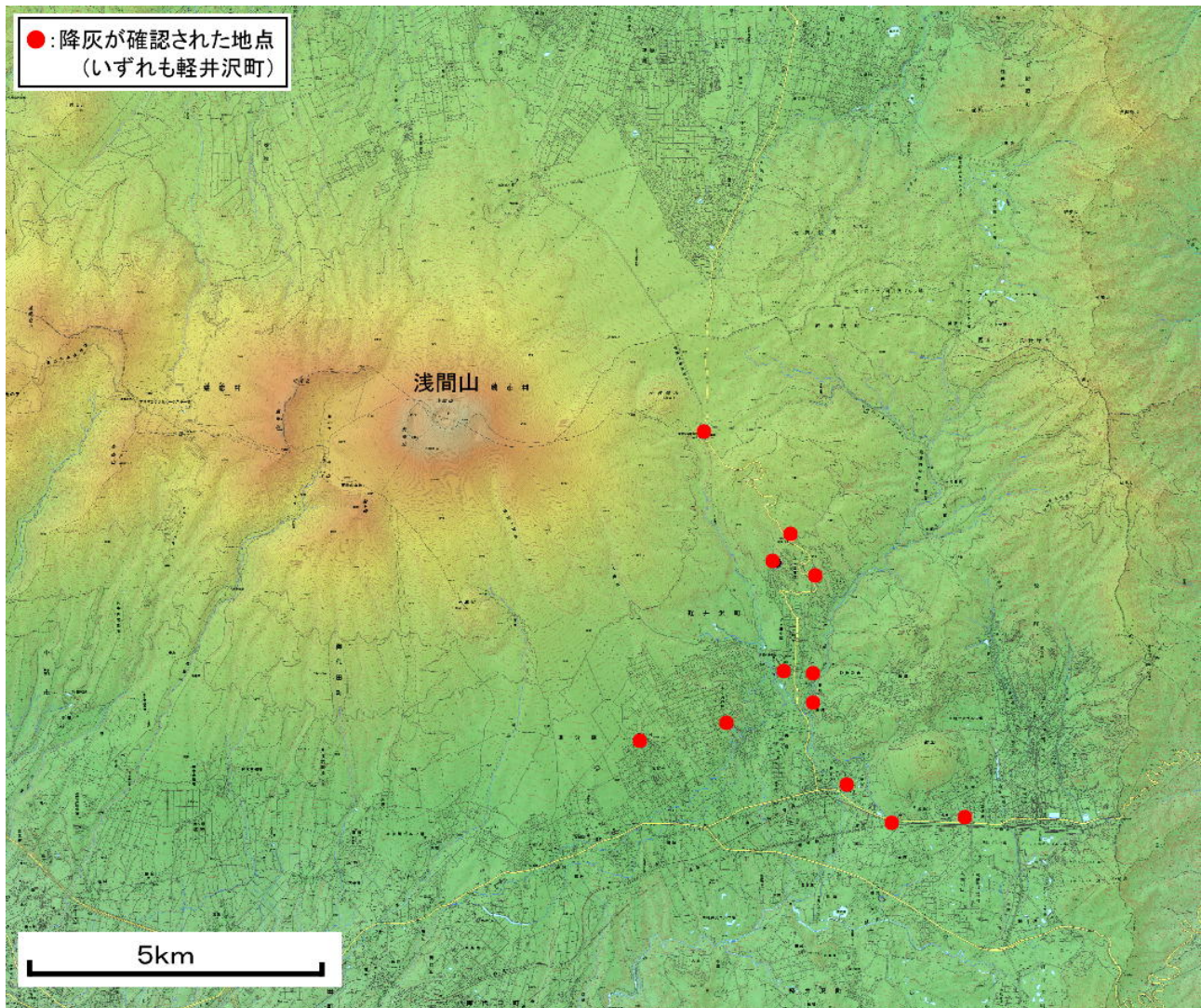


図1 浅間山 降灰分布図（狭域）
現地調査や聞き取り調査等による
●は降灰を確認した地点

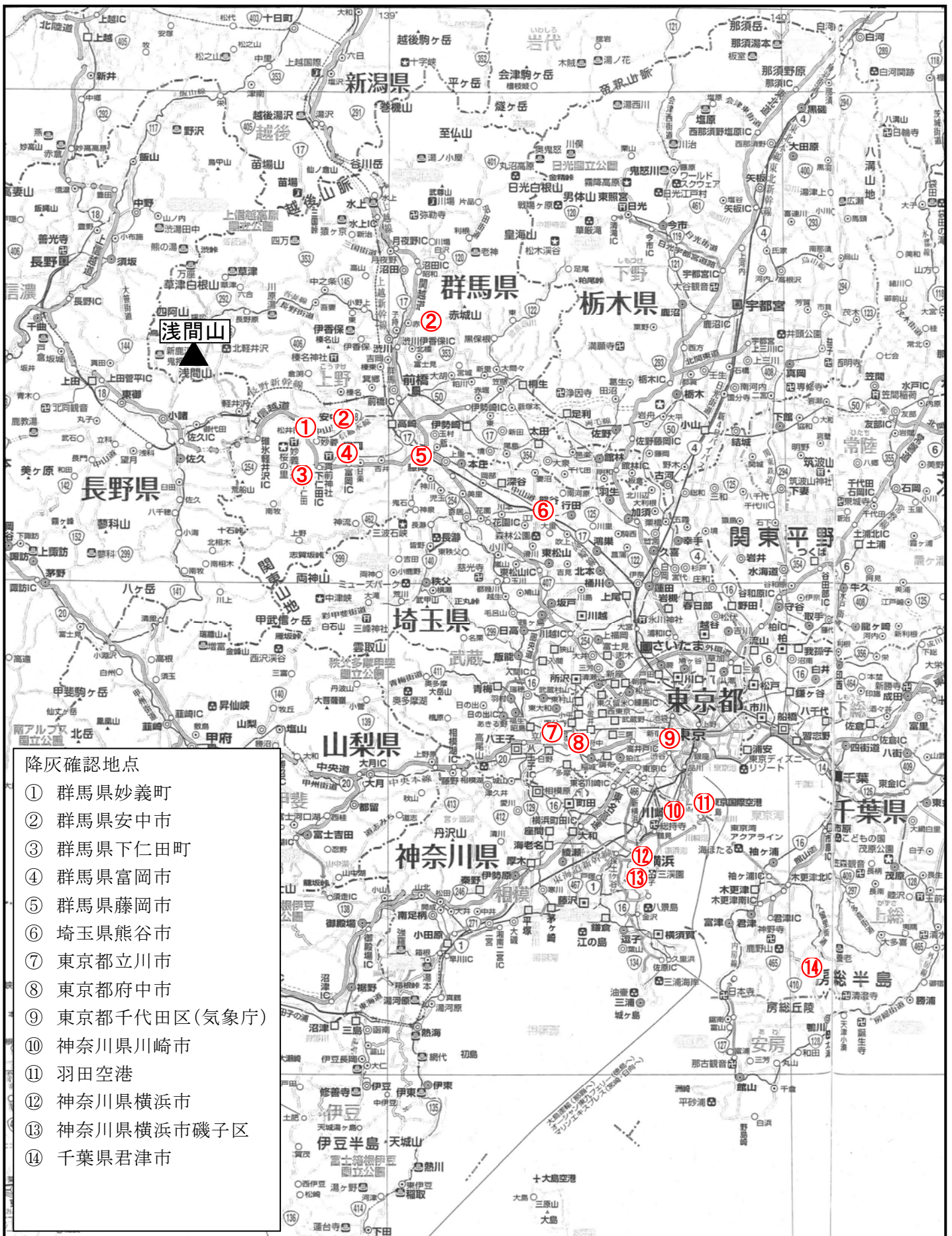


図2 浅間山 降灰分布図(広域)
 現地調査や聞き取り調査等による
 ●は降灰を確認した地点

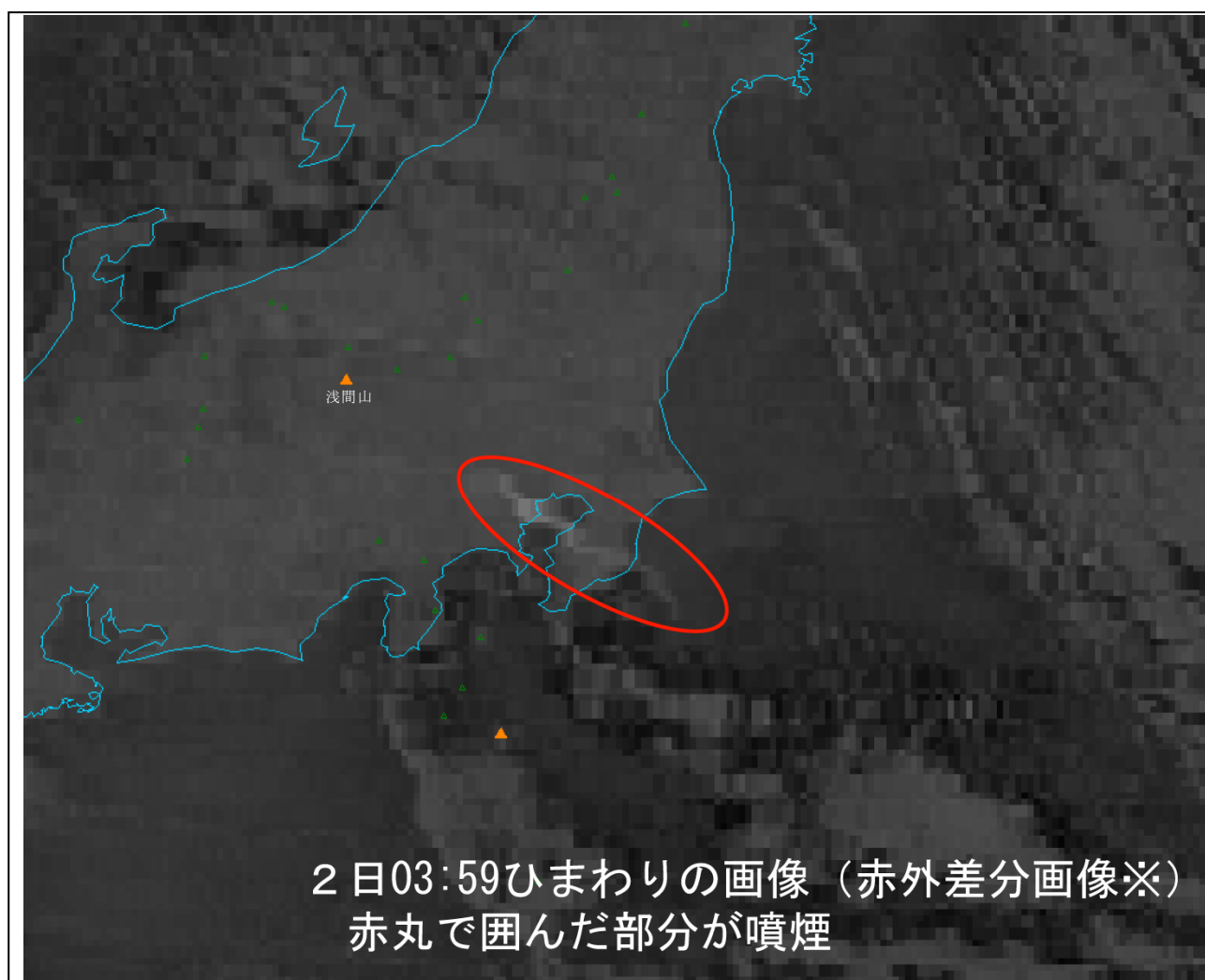


図3 気象衛星ひまわりの画像（2009年2月2日03時59分 赤外差分画像※）
赤丸で囲んだ部分が噴煙

注）赤外差分画像とは、火山灰が強調されるよう赤外1（10.3～11.3 μ m）から赤外2（11.5～12.5 μ m）の輝度温度を差し引く処理をした画像



図 4 噴火の状況（2009 年 2 月 2 日）（国土交通省利根川水系砂防事務所提供）

浅間山（分値）

2009/01/29 00:00 — 2009/02/02 07:12

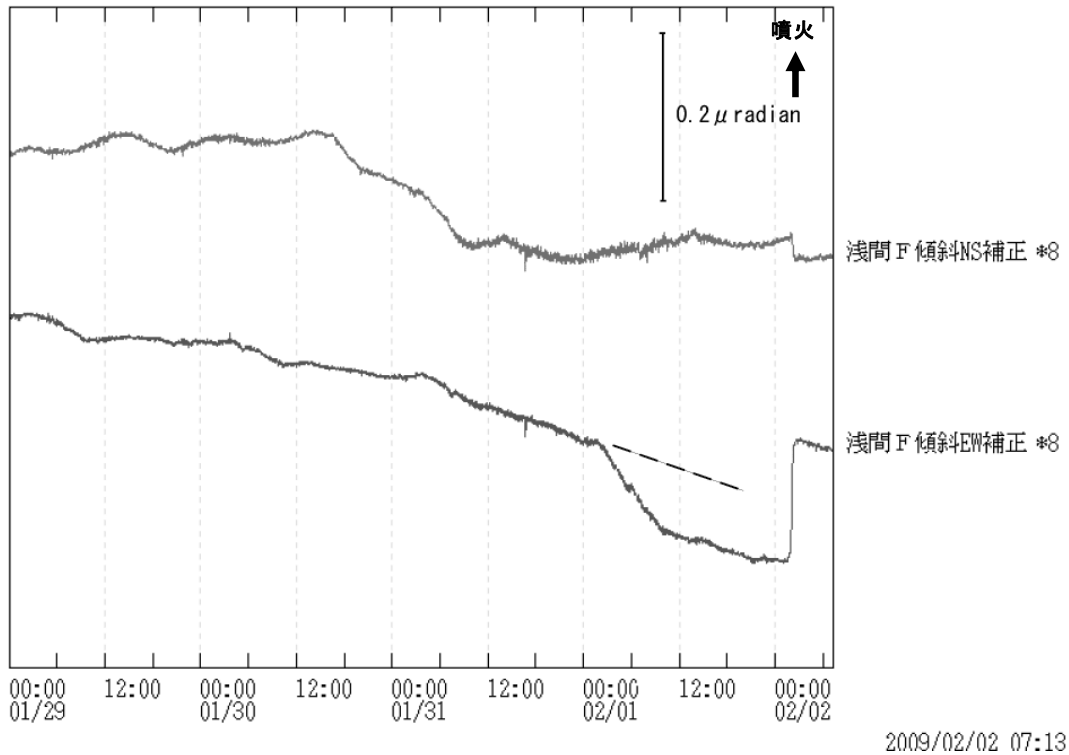


図5 浅間山 傾斜変化（2009年1月29日00時00分～2月2日07時12分）

浅間山，日別イベント回数グラフ 2008/12/01 00:00～2009/02/02 23:59，イベントタイプ BH
自動検測，手動検測

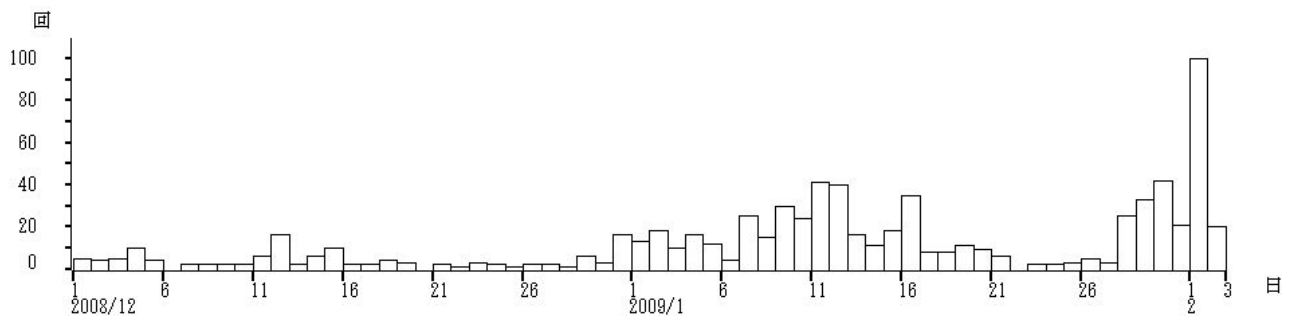


図6 日別地震回数（BH型地震のみ）（2008年12月1日～2009年2月2日06時00分）

注．地震回数は暫定です。

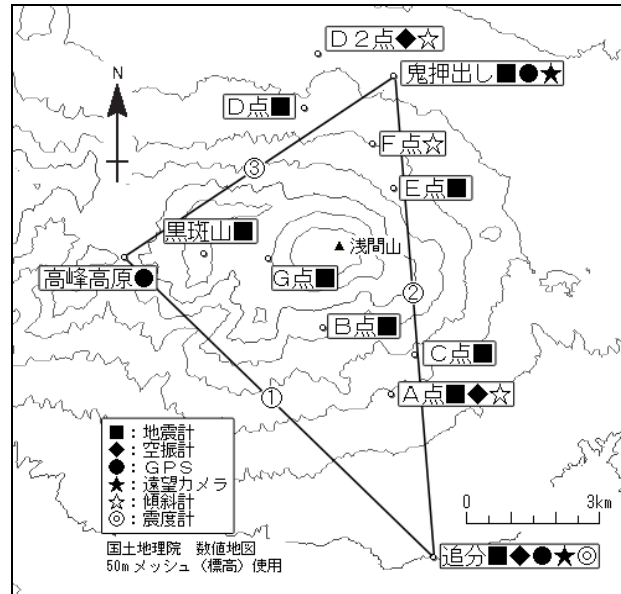


図7 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）

注）火山性地震の計数基準はB点で最大振幅 $0.1\mu m$ 以上、S－P時間3秒以内です。
火山性地震の種類は以下のとおりです。

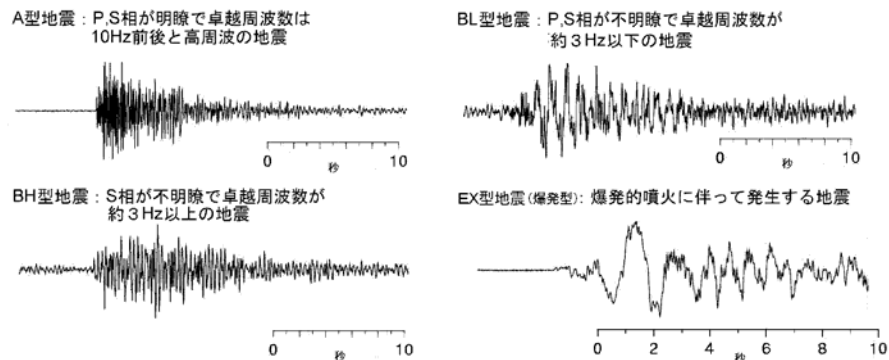


図8 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例